東京工芸大学同窓会　会報

ひろば

Vol.144
HI RO BA

発行日：2022.6.1　発行人：安達 洋次郎
〒164-8678　東京都中野区本町 2-9-5　TEL & FAX 03-5371-2732（事務局）
http://www.kougei-dousoukai.jp　dousoukai@kougei-dousoukai.jp（受信専用）

卒業制作展
卒業のことば
フォックス・タルボット賞
2023年度芸術学部同窓生子女特別推薦型選抜
学位授与式
ひろばのページ

撮影：伊佐津 秀仁

東京工芸大学芸術学部卒業・大学院修了制作展

卒展委員長の言葉

「東京工芸大学芸術学部卒業・大学院修了制作展2022」は2022年２月18日から20日まで３日間中野キャンパスで行われました。芸術学部の７学科(写真、映像、デザイン、インタラクティブメディア、アニメーション、ゲーム、マンガ)と大学院芸術学研究科が揃って、展示・上映を無事に終えることができました。新型コロナウイルス禍の中で、招待制による開催ではありましたが、学生の皆さんを始め教職員、同窓会の皆様のおかげで無事に終えることができましたことをご報告するとともにご協力いただきました皆様にはお礼申し上げます。

展覧会は中野キャンパスすべての建物を会場として活用して行われました。１号館では映像学科の作品上映や、ゲーム学科の作品展示が、２号館では映像学科、アニメーション学科の作品上映やゲーム学科の作品展示が、３号館ではデザイン学科の全領域の作品を、５号館では写真学科の作品展示が、６号館ではインタラクティブメディア学科、マンガ学科の作品をお披露目することができました。完全招待制の開催ではありましたが、一昨年度より参加者は増えておりまして、卒業制作展への関心の高さを感じることができました。まだコロナ禍ということもあり、各会場では新型コロナウイルスの対策に万全を尽くしておりまして、ご来場された皆様には安全な環境の中で安心して個々の作品をご覧いただくことができました。会場全体の様子は落ち着きのなかで、百花繚乱、絢爛華麗でございました。

今年度は2023年２月17日(金)から２月19日(日)まで開催を予定しております。引き続き、学生生活の集大成である卒業研究の成果が各会場でさらにパワーアップした形で展示できるよう、昨年度の経験を活かしながら努力して参ります。同窓会の皆様にはご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

卒業制作展委員会委員長
教授　李 容旭(映像学科)

吉野学長

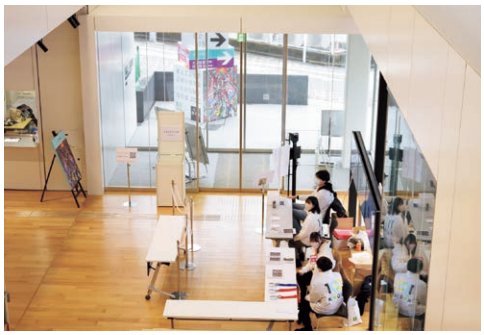
大島芸術学部長

石川大学院芸術学研究科長

オープニングセレモニーに集まった学生・教職員

メインビジュアル(デザイン学科４年
佐藤歩夢さん　作品タイトル「炎と抗体」)

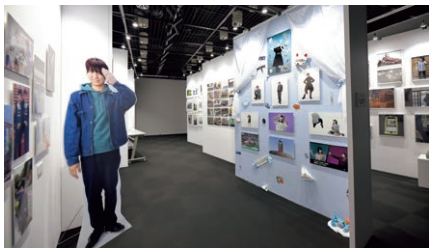
2022　新型コロナ禍で招待制で開催

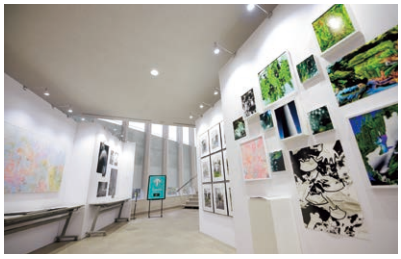


卒業制作展の写真提供：都筑写真事務所

卒業制作展

写真学科





卒業のことば

写真学科　小林 菜奈子

大学生活は、先の予想できない刺激的な４年間となりました。写真部に所属していた高校時代、全国高等学校総合文化祭に参加した際に東京工芸大学のブースへ足を運んだことがこの大学に入学するきっかけとなります。九州出身であった為、東京という新しい土地で生活していくこと、写真について深く学ぶこと、この二つの選択はこれまでの私にとって全く予想していなかったものでした。そして、この選択を行ったことでしか経験し得なかった事を沢山経験することができました。まず、新しい土地で一人暮らしを行ったことで、家事や金銭面など、日々の暮らしを送ることがどれ程大変なのかを実感しました。また、さまざまな展覧会に足を運ぶことでフットワークが軽くなったと感じます。これらの事は写真を学んでいく上でも良い影響をもたらしました。フットワークが軽くなったおかげで、高校生までは断っていたような、遠くの土地に赴く選択ができるようになったのです。２年次には大学のプログラムでスイス、４年次にはボランティアで北海道の東川町に行かせていただきました。実際にその土地へ行くことでしか感じられない雰囲気に高揚したことを今でも鮮明に覚えています。この大学生活での経験を糧に今後も写真を撮り続けていきたいです。

卒業制作展

映像学科

卒業のことば

映像学科　佐野 綾河

大学生活は、コロナウィルスの影響もあり後半は何も出来ず、あっという間に過ぎ去りました。大学にはただただ映像が好きという気持ちのみで入学した私ですが、大学で先生や学生から学ぶにつれて自分自身が突き詰めたいこと、職業にしたいことなどを見せてもらいました。また、学業と共にアルバイトにも力を入れました。映像業界で勤務をしました。そこでは、非日常的な体験とともに、様々な番組や事案、大人と接することで業界についても深く理解することができました。

私は日々「卒業する時にどんな人になっていたいか、どんな環境にいたいか」ということを考えていました。そうすることで自ずとやらなければいけないことや、今自分がどの位置にいるのかが見えてきたので、みなさんも是非この考え方で取り組んでほしいです。

この４年間は、人生で一番濃い時間となったことは間違いありません。この経験を糧にして精進したいと思います。今後はテレビの技術者として後世に残るような映像を、日々撮り続けていきます。

卒業制作展
デザイン学科
グラフィックデザイン領域

卒業のことば

デザイン学科　グラフィックデザイン領域　椿原 愛海

デザイン学科には個々に魅力を持った方々が自分なりのデザインを表現しようと制作に取り組んできました。それをお互いに評価し合い、意見の交換を行うことでよりクオリティの高い作品に仕上げ、スキルアップと次の作品への意欲に繋げてきました。

私がグラフィックデザイン領域を選択した一つの理由として地方創生につながるデザインを学びたいと強く考えたからです。ブランディングを強みにしたデザインの価値と在り方をしっかり分析することで自分の力になり、他の学生の作品を観察することで違った視点の面白さを発見できるとてもいい場所になりました。最初は自分なりのデザインとは何かと息詰まることが多々あり、先生からも厳しい意見をいただきました。しかし、作品への想いと創作意欲を高めることでどんどん作り上げ、デザインすることがとても楽しくなりこだわりを持つことの重要性を知りました。

コロナ禍もあり、領域内での交流は限られてきましたが、そんな中で必死に取り組んだ制作期間と研究室内での時間は貴重となりました。この領域での日々は素晴らしいもので、デザインに打ち込んだ思い出を大切にこれからもより良いものを作りあげていきたいと思います。

卒業制作展
デザイン学科
イラストレーション領域

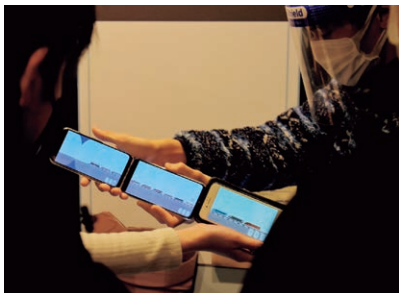
卒業のことば

デザイン学科　イラストレーション領域　佐藤 歩夢

東京工芸大学に入学してから様々なことが起こりましたが、成長できた４年間だったと思います。

入学する前はイラストレーションのことなど全く知らなかった私ですが、イラストレーターである先生方に講義や課題で多くのことを教えていただきました。しかし、３年生でイラストレーション研究室に所属したタイミングで新型コロナウイルスが猛威を振るい、対面での授業が出来なくなってしまいました。これから専門の領域で学んでいくというときにリモートで授業をするという特殊な状況でした。直接先生方や研究室の仲間と会うことが出来ないことは非常に残念でしたが、在宅での作品制作の時間が増え、それをプラスに捉えて日々作品と向き合ってきました。この４年間はあっという間のように感じましたが、大学在学中に作った作品を見返してみるとかなり成長できた濃い４年間でした。卒業後はイラストレーターとして活躍できるように日々努力を重ねてまいります。残念ながらまだ新型コロナウイルスによって厳しい状況が続いておりますが、いつか収まったらまた皆と会えたら良いなと思います。

卒業制作展
デザイン学科
映像情報デザイン領域



卒業のことば

デザイン学科　映像情報デザイン領域　榎本 司

高校生までの自分は体育系男子。

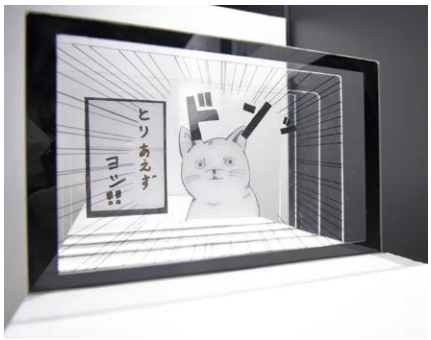
周りの友人達も先生達も「司は体育系の道に進むだろう」と思っていました。しかし高校を卒業し、自分が選んだ道はデザインの道。デザインの意味もよく分かっていませんでしたが、何か新しい世界を観たいという人生最大のチャレンジでした。映像デザインに出会い、自分の世界は大きく変わったと思います。たった数秒のシーンを創るのに何時間、何日とかける映像。だからこそ、その一瞬一瞬にどんな意味やメッセージを残すのか。それがデザインにおいてどれほど大切かを学びました。そしてデザインの深さや面白さを知ることが出来たと思います。

また、デザイン学科の友人達と行った海外旅行や被災地でのボランティア活動。難しい課題があれば助け合い、全てが終われば「お疲れ様！」と乾杯した日々。一緒に学んできた仲間であり、ライバルでもある友人達と過ごした４年間は、本当に素晴らしい時間だったし、自分自身を大きく成長させてくれたと思います。これから社会に出ていく不安は大きいです。しかし東京工芸大学で過ごした日々を糧に、また新しいチャレンジをしていきたいと思います。

卒業制作展

デザイン学科

空間プロダクトデザイン領域



卒業のことば

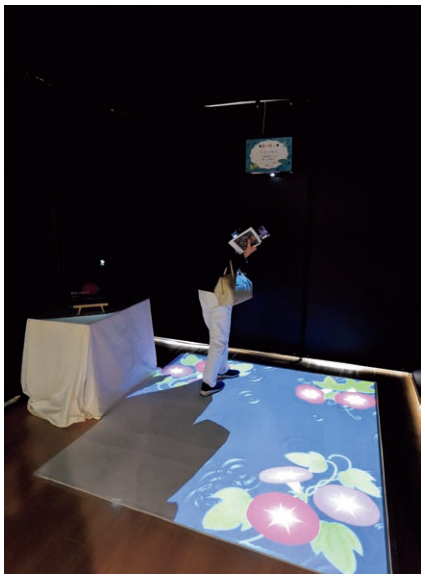
デザイン学科　空間プロダクトデザイン領域　二ノ宮 颯太

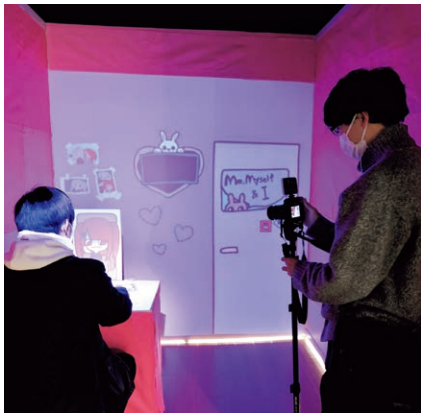
４年間の大学生活を通して私は確実に成長できたと実感しています。幼少期から部屋の模様替えや空間構成に興味があり空間デザインを学びたいという意思から大学進学を決意しました。入学当初は自分の思うように制作ができず壁にぶつかる事が多々ありました。悔しさをバネに人一倍負けず嫌いな私は友人や教授さえも驚かして誰も真似できない自分らしく他者に伝わるデザインをしていきたいと決意しました。

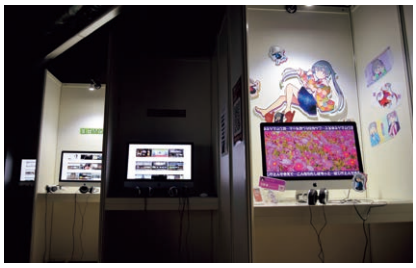
私は制作をしていく過程で最も重要な存在に出会いました。友人です。一人で制作することが間違っているとは思いませんが私は友人の存在がとても大きかったです。一番近い存在で一番高め合えるライバルのような存在。友人のアドバイスがあって完成した作品もあります。先輩や後輩も同じです。卒業制作を手伝ってくれた後輩や就活を支えてくれた先輩。大学で出会った友人や後輩、先輩はこの先もずっと関わっていきたいです。

これから学んでいく学生やこれから目指すことになる学生も友人という存在を大切にして大学生活を最高に楽しんでほしいですね。

卒業制作展
インタラクティブメディア学科







卒業のことば

インタラクティブメディア学科　錦織 健

大学４年間はあっという間でしたが、充実した大学生活を送ることができました。この代は、厚木と中野の２つのキャンパスで授業を経験した最後の芸術学部の学生でした。今振り返ると、２つの環境で学べた、とても貴重な経験だったと、それに感慨を深く感じています。

卒業制作展では、芸術学部大賞をいただきました。自分の力を120%出せ、納得のいく作品ができたことにとても満足し、さらに、それを評価いただけたことをとても嬉しく思います。昨年には、同窓会会長賞を頂き、そちらでも、日頃の活動を評価いただけたことをとても嬉しく思います。学生生活の中で、様々なジャンルの作品作りに挑戦したこと、国家資格への挑戦や教員免許の取得のために努力したこと、現場で様々な仕事を経験した数々は、今後の活動にとても活かされていくと思います。今後はフリーランスで空間演出デザイナー、エンジニア、ライティングアーティストとして活動していきます。演出デザインから設計、施工、システム開発まで幅広く活動していくので、これをご覧の皆様とのご縁を大事にし、ご一緒にお仕事ができたら幸せに思います。

メール：nishikiori.mediaart@gmail.com
ポートフォリオ：https://www.wantedly.com/id/ken_nishikiori

卒業制作展

アニメーション学科

卒業のことば

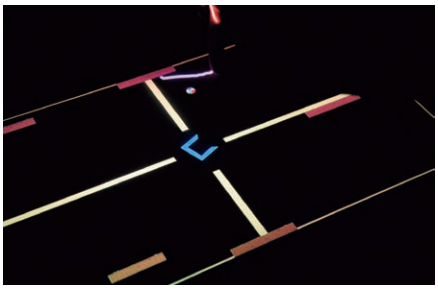
アニメーション学科 宗雪 由佳

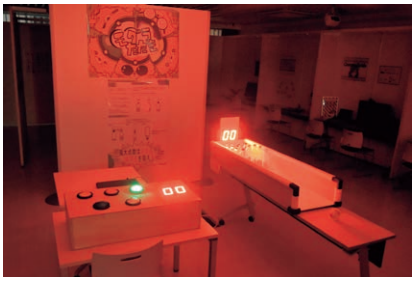
私の過ごした大学４年間は、私の価値観や考え方を変えてくれるものでした。絵を描くことが好きだった私にとって、アニメーションは非常に魅力的なものでした。大学に入学し、４年という時間の中で、様々な学びや経験、作品に触れ、制作することで、絵を描く私の世界観を更に広げることが出来ました。

在学中作品を作る中で、私は卒業後も作品制作に携わりたいと思い、アニメーション業界に就職しました。その中で「アニメーションを作り続けるためには何が必要だと思う？」という問いを投げかけられました。私は上手く言葉にすることが出来なかったのですが、友人に相談すると「好奇心かな？」という答えが返ってきました。アニメーションを見て、感化されて深夜遅くまで絵を描いていた学生時代。いつまでも探究し続ける好奇心が、技量も心も強くすると気づくことが出来ました。友人の受け売りではありますが、卒業後も「好奇心」を忘れずにいつまでも作品を制作していきたいです。

卒業制作展

ゲーム学科





卒業のことば

ゲーム学科　石井 琉偉

ゲーム学科で過ごした４年間は仲間や先生に恵まれた学生生活であったとともに自分が本当にしたいことを見つけることができた大切な時間でした。

私はゲームを通して、人を思いやる心、あきらめない心、同じ志を抱いて協力し合う心を気づかせることができたらと思い、この大学に入学しました。しかし、いざゲーム制作をすると面白いゲームを作る難しさを感じました。そんな時に転機となったのが、２年次のゲームプレイという授業でした。この授業を通してプレイしてくれる人にどのような体験を与えたいかを考えるようになりました。また、ゲームの制作をしていく中で私の果たしたい目標はゲーム以外の方がより良い体験を与えられるのではないかと思いました。

このような気づきはゲーム学科に入学していなければ得られなかったと思います。

今後はゲーム業界ではなくイベント業界で働くことになりますが、ゲーム学科で得た学びを活かし、イベント演出家として頑張っていきます。支えてくれた仲間や先生方、本当にありがとうございました。

卒業制作展

マンガ学科

2022フォックス・タルボット賞

フォックス・タルボット賞は、写真表現に情熱を傾ける若い写真家の登竜門としての役割と国際的視野をもった写真家を育成することを目的に、1979年東京工芸大学短期大学部に設けられ、今回で第43回を迎えることになりました。本賞は、ネガポジプロセスの発明者ウィリアム・ヘンリー・フォックス・タルボット氏(英・William Henry Fox Talbot 1800-1877)の偉業をたたえ、イギリスのフォックス・タルボット美術館のご協力をいただき、氏の名前を冠した賞となっています。

今回、同窓会よりご協賛をいただきました。ありがとうございます。協賛金は入賞者への奨励金の増額と、新しい写真表現にチャレンジした人に贈られる「奨励賞」を新設いたしました。その甲斐もありまして、今回は写真学科以外の芸術学部からの応募に加えて、工学部の学生からも作品が寄せられました。残念ながら入賞には至りませんでしたが、全学的な参加は賞の今後の発展につながるものと考えております。改めてお礼申し上げます。

第一席には、写真学科４年生、原加那子さんの「場と物」が選ばれました。日常感あふれる中に作り込んだセットが組み込まれた作品で、デジタル合成が席巻する現在ですが、膨大な量の手作業による作品はシュールさとリアリティに溢れ、審査員の高評価を得ました。今回は写真学科４年生を中心に３年生や大学院生、大学院修了者など多彩な顔ぶれが受賞しました。なお、昨年に引き続き感染症予防のため表彰式、パーティーは行われませんでしたが、受賞作品展は２月28日から３月26日まで写大ギャラリーで行われました。

フォックス・タルボット賞　審査風景
左から、小林審査員、田沼審査委員長、立木審査員、細江審査員、中谷審査員

卒業・修了年度によって応募資格に制限はありますが、応募が可能な卒業生の皆様方、ぜひ次回「2023フォックス・タルボット賞」への参加をご検討ください。お待ちいたしております。

フォックス・タルボット賞運営委員長
教授　田中 仁

2022フォックス・タルボット賞は、2022年２月２日に審査が行われ、下記の方々が受賞しました。

2022フォックス・タルボット賞　受賞者

第一席	場と物	原　加那子	芸術学部写真学科４年
第二席	Amayekio	金田　剛	芸術学研究科メディアアート専攻
第三席	二万キロ	豊島大生	芸術学部写真学科４年
モノクロ賞	午前15時	上野桃果	芸術学部写真学科４年
奨励賞	距離のない距離の移動	小林菜奈子	芸術学部写真学科４年
佳　作	うむい	星子桃花	芸術学部写真学科３年
佳　作	都市に生きる	丸茂航太	芸術学部写真学科４年
佳　作	OBSCURE	コウ レイエイ	芸術学部写真学科４年
佳　作	Lying flat 2021	キ　セツカン	芸術学研究科メディアアート2021年修了
佳　作	肌触り	安藤みやこ	芸術学部写真学科４年

審査員　田沼武能(審査委員長)　細江英公　中谷吉隆　立木義浩　小林紀晴　（敬称略）

※学年は受賞当時のものです。

「2023年度芸術学部同窓生子女特別推薦型選抜」

本入試は、本学の建学の精神に深い理解を示す同窓生子女を受け入れることにより、本学独自の学風を継承し、発展させるための一助として実施する試験です。

（1）推薦者（推薦資格）

本学同窓生（工学部、芸術学部、女子短期大学部、芸術別科写真技術専修、写真短期大学、写真専門学校を含む）

（2）志願者（被推薦者）出願資格

次の①～⑤全ての条件に該当すること

①2022年４月１日から2023年３月31日までに、日本の高等学校または中等教育学校を卒業（見込み）する人

②本学同窓生（工学部、芸術学部、女子短期大学部、芸術別科写真技術専修、写真短期大学、写真専門学校を含む）の子女（孫を含む）である人

③本学同窓生（工学部、芸術学部、女子短期大学部、芸術別科写真技術専修、写真短期大学、写真専門学校を含む）の推薦を得た人

④高等学校第３学年１学期（２学期制の高等学校の場合は前期）までの評定平均値が3.5以上の人

⑤本学の教育内容を十分に理解し、出願学科を第一志望とする人（合格した場合、必ず入学する人）

＜留学生の場合＞

上記の出願資格に該当し、日本語能力試験（JLPT）N２以上に合格している人、または過去２年以内の日本留学試験（EJU）の日本語（読解、聴解・聴読解）の得点が220点以上の人

（3）同窓生子女特別推薦型選抜試験日

2022年11月12日（土）

（4）同窓生子女特別推薦型選抜推薦書提出期間（予定）

2022年11月１日（火）～11月４日（金）［締切日消印有効］

※所定の提出書類の他に、同窓生本人による推薦書（本学所定の用紙による）をご提出いただきます。

（5）対象学部・学科

芸術学部　各学科

（6）推薦に必要な書類（出願書類）

①志願票（インターネット出願サイトから出力）

②大学入学資格に関する証明書

a.調査書

③同窓生子女特別推薦型選抜推薦書（インターネットからダウンロードまたは出願様式集 芸術学部（芸）様式２）

④面接資料（インターネットからダウンロードまたは出願様式集 芸術学部（芸）様式４）

＜留学生の場合＞

他に追加書類があります。詳細は学生募集要項をご確認ください。

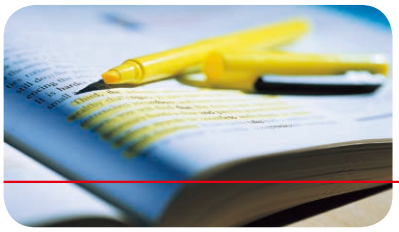
（7）問い合わせ先

東京工芸大学　芸術学部入試課

〒164-8678　東京都中野区本町２-９-５

TEL　03-5371-2676

FAX　03-5371-2874



2022年３月24日、中野サンプラザ・ホールにて2021年度芸術学部・芸術学研究科の学位授与式が執り行われました。感染対策のため、式典は昨年度同様７学科＋大学院を午前と午後に分割し、短縮プログラムで挙行されました。残念ながら今年度も後援会・同窓会主催の「卒業祝賀会」を実施することは叶いませんでしたが、お天気にも恵まれポカポカ陽気の中、卒業生たちの笑顔でいっぱいの１日になりました。

2021年度　学位授与式

写真提供：都筑写真事務所

ひろばのページ

2022年度入学式

2022年４月５日、神奈川県民ホールにて、2022年度の入学式が挙行されました。芸術学部に694名の新しい仲間が加わり、会場には新入生の希望に満ちた表情が溢れていました。

令和3年度 後期理事会開催報告

令和３年度　同窓会後期理事会を、令和３年12月20日(月)13:00～15:00、中野サンプラザ15階会議室フォレストにて開催いたしました。構成理事32名のところ、24名(うち委任状８名)の出席により理事会開催が成立し、全ての議案に関してご承認頂きました。

議案

第１号議案　名誉顧問及び顧問の推挙について

第２号議案　令和３年度　前期事業報告

第３号議案　令和３年度　中間決算報告

第４号議案　令和３年度　後期事業計画

吉田志穂さん（写真学科卒業生）が第46回「木村伊兵衛写真賞」を受賞

写真学科卒業生の写真家・吉田志穂さん(90期)が、第46回「木村伊兵衛写真賞」を受賞しました。おめでとうございます！木村伊兵衛写真賞とは、日本を代表する写真家・木村伊兵衛の日本の写真界の発展に対する功績を記念して、1975年に朝日新聞社によって創設されました。プロ・アマを問わず、毎年優れた作品を発表した新人写真家に贈られるもので、「写真界の芥川賞」とも呼ばれています。

ベストキャリア賞の新設

2021年度から、芸術学部では就職支援に功績のあった教員を顕彰するためにベストキャリア賞が新設されました。１学科から１名の教員が選ばれます。学生が就職への意識を高めていくことはもちろんですが、教員に今以上の就職支援の意識を高めてもらうことが重要と考えられたものです。

学生本人の積極的な取り組みはいうまでもなく大切ですが、コロナ禍の先が読めない時代にあって、不安を抱えがちな学生がモチベーションを維持するためには、日頃から接する機会が多い教員の力が大きいと実感しています。学生の将来への展開を時にはリードし、時には激奨し、また温かくフォローしていくためには時間と根気がいるものです。

なお、本学はみなさま卒業生とのつながりをとても大切にしております。学生も先輩方のいる業界、職種、企業などにはつねに関心を持っております。コロナ禍にあって、その絆をより大切にしたいという思いを教職員一同、より高めているところでもあります。求人の情報などありましたら、お気軽に中野キャンパス事務部、就職支援課(Tel 03-5371-2675)までご一報いただけましたら幸いです。

芸術学部就職委員長
教授　小林紀晴

支援の「支」の文字をシンボライズしたデザインです。対になるような色の組み合わせとし、教職員が一人一人の学生に向き合う様をイメージしました。受賞した教職員が誇れる(飾れる)ものにしたいと考え、銀色(シルバー)をポイントに使用しました。

展示会・出版の記録

展：展示会名　作：作者　所：場所　期：会期
※学年、職位等は開催当時のものです

展：駐日韓国大使館　韓国文化院　東京工芸大学共同企画　東京工芸大学芸術学部日・韓学生展「Challenge Art in Japan」
作：菅谷実穂・イ・ソンイ・オ・ジェウン
所：駐日韓国文化院ギャラリーMI、サランバン
期：2021.11.11-12.07

展：山下晃伸写真展「夜光性静物観察記」
作：山下晃伸(写真学科82期)
所：富士フォトギャラリー銀座
期：2021.11.12-11.18

展：写真展「植田正治を変奏する」
作：植田正治
所：写大ギャラリー
期：2021.11.29-1.29

展：第14回恵比寿映像祭「スペクタクル後 AFTER THE SPECTACLE」
作：小原真史准教授(企画)
所：東京都写真美術館、恵比寿ガーデンプレイス センター広場、地域連携各所ほか
期：2022.2.4-2.20

No Image

展：2022フォックス・タルボット賞受賞写真展
作：原加那子・金田剛・豊島大生・上野桃果・小林菜奈子・星子桃花・丸茂航太・コウ レイエイ・キ セツカン・安藤みやこ
所：写大ギャラリー
期：2022.2.28-3.26

展：東京工芸大学“写真学科スペシャル”アワード2022　作品展
作：小林菜奈子・細田歌乃・星子桃花・亀岡倫太郎・森口絵莉・丹治勇介・三島健太郎・伊佐津秀仁・原加那子・礒﨑龍平・髙森千瑛・成井有紀
所：ソニーイメージングギャラリー銀座
期：2022.3.4-3.17

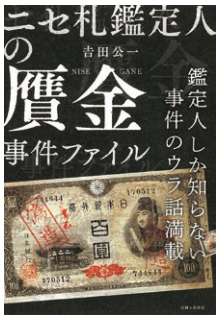
展：東京工芸大学芸術学部写真学科　肖像写真研究室作品展2022
作：肖像写真研究室
所：ポートレートギャラリー
期：2022.3.10-3.16

展：梁丞佑写真展「新宿迷子」
作：梁丞佑
所：かまどの下の灰までgallery
期：2022.3.17-4.4

展：東京工芸大学 カラー写真部春展「余白」
作：東京工芸大学 カラー写真部
所：弘重ギャラリー
期：2022.3.29-4.3

展：土門拳写真展「古寺巡礼―土門拳が切り取った時間―」
作：土門拳
所：写大ギャラリー
期：2022.4.11-6.1

展：FOTO.ism 春展『瞬き』
作：FOTO.ism
所：ギャラリー・ルデコ
期：2022.4.12-4.17



ニセ札鑑定人の贋金事件ファイル
吉田公一(写真技術科28期)
主婦と生活社
2021.7.16

暴く者暴かれるモノ
吉田公一(写真技術科28期)
主婦と生活社
2021.12.11

訃　報

哀心よりお悔み申し上げます。

田中　達也（23期・写真技術科）
丹野　正邦（24期・写真技術科）
吉野　宗治（30期・写真技術科）
村山　明寛（30期・写真工業科）
古田土成雄（31期・写真技術科）
市場新太郎（31期・写真技術科）
枝川　一巳（32期・写真工業科）
平工　幸二（37期・写真技術科）
鉄炮塚昭光（37期・写真工業科）
塚本茉莉子（38期・写真技術科）
小杉　恵偉（40期・写真工業科）
松田　道雄（44期・写真応用科）
田島健一郎（49期・写真技術科）
遠藤（旧姓 森）有子（60期・写真技術科）
島内　伸彦（65期・写真応用科）

（敬称略）
訃報は御親族の承諾を頂いた方のみ掲載させて頂いております。

掲載記事の募集

「ひろば」に掲載する記事を募集します。エピソードや同期会・クラス会(規模の大小は問いません)など、楽しい記事をお待ちしております。テキスト原稿・集合写真などを、メールもしくは郵送で同窓会事務局までお送り下さい。紙面編集の都合上、原稿は広報委員会で調整させて頂く場合がございます。予めご了承下さい。よろしくお願い申し上げます。

編集後記

同窓生の皆様、はじめまして。今春より写真学科助手に着任致しました91期卒業生の高田有輝と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。

新学期が始まり、構内も学生の姿を多く見かける季節となりました。コロナ収束の目処が立たないなか、不安と期待で溢れているようにも感じられます。そんな学生たちにどこか過去の自分の姿を投影してしまいます。同時に学生時代、先生方から頂いた多くの言葉や創作に対する姿勢を、改めて思い出し、私自身も身が引き締まる思いでした。在学生含め、本学卒業生の活躍を「ひろば」を通して知って頂けたら幸いです。

高田 有輝(91期)

東京工芸大学同窓会　会報『ひろば』vol.144　発行人：安達 洋次郎　〒164-8678 東京都中野区本町2-9-5　TEL & FAX 03-5371-2732(事務局)　http://www.kougei-dousoukai.jp